

平成 24 年度採択 申請区分Ⅱ ⑤ 早稲田大学

「『日本語教育学』総合学習プログラムを通じた重層的・循環的人材育成事業」

●相手大学・機関

パジャジャラン大学（インドネシア）、シンガポール国立大学、南洋理工大学（シンガポール）、タマサート大学、チュラロンコーン大学、コンケン大学、チェンマイ大学、ナレースワン大学（タイ）、デ・ラ・サール大学（フィリピン）、マラヤ大学（マレーシア）

●主な活動内容（概要）

- ・大学院で日本語教育学を専攻する学生の長期（1 セメスター）の相互派遣・受入
- ・学部副専攻で日本語教育学を受講する本学学部生の短期（2～3 週間）海外実習派遣
- ・海外相手大学で日本語を学ぶ学生の短期（3 週間～6 週間）受入

上記を通じて、①自国文化・伝統・社会への深い理解、②多文化に対する寛容性と異文化コミュニケーション能力、③実践的多言語運用能力＋チームワーク力（まとめる力） という 3 つの資質・能力を身に付けた、将来、日本と ASEAN との架け橋となる人材を養成・輩出する。

●プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等）

現状・課題

- ・一部（マレーシア、フィリピン、タイの地方）の大学からの受入が少ない。補助金から住居を手配し、対象者には JASSO 奨学金を支給しているものの、学費、日本（東京）での生活費が高く、なお経済的負担が大きいという。短期受入の場合、宿舎から大学までの交通費だけで、毎日 1,000 円前後の出費がある（短期滞在のため学割定期券は購入不可）。これは短期滞在用の宿舎を、大学周辺の都心で適当な価格で確保できず、現状都心から 1 時間程離れた距離（埼玉県、千葉県）に手配せざるを得ないことに起因する。短期留学者向けに適当な宿舎を確保できないことは悩ましい問題である。
- ・本学大学院生の長期派遣者が少ない。学生の内向き志向、留学のしやすさ、大学院のカリキュラム、条件・待遇面のよい他の団体による留学プログラムの存在など、さまざまな要因が考えられる。今後本プログラムの魅力を、中身と条件両面から発信していくことが必要である。

成功事例

短期留学を経験した学生が、自らの成長のため、長期留学に挑戦するケースが増えてきた。また留学経験者の学期を超えた交流も盛んで、重層的、循環的な人材育成が実現している。

●学生交流数

	平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)
受 入	—	—	0	0	64	56	72	72
派 遣	—	—	0	19	70	41	78	60

(※) 予定含む

